



T-time

帝塚山学園広報誌

Vol. **23**
2026/Mar.
令和8年3月5日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園



Contents

巻頭言 P 02

「これからも選ばれ続ける帝塚山学園であるために」
理事長・学園長 富岡 将人

大学 P 03

本学・UR都市機構主催「コミュニティフェスタ」に
現代生活学部と法学部の学生が参加

TOPICS

- ・大学女子バレーボール部が富岡将人理事長・学園長を表敬訪問
- ・経済経営学部 姜ゼミ
「大学生によるIRリサーチ・プレゼンテーション」で受賞
- ・経済経営学部 吉野ゼミ
日本銀行大阪支店を訪問し、金融の最前線を学ぶ

中学校・高等学校 P 05

古都奈良の冬を赤く染める伝統行事
若草山焼きに生徒・教員が法螺貝衆として参加

TOPICS

- ・弦楽部 全国大会で第2位を獲得
- ・DXハイスクール記念講演を実施
「バイオベンチャーがひらく持続可能な社会と新しい仕事のかたち」
- ・マイナビキャリア甲子園で挑戦 一決勝進出へ

小学校 P 07

英語で思いを届ける一日
WINTER FESTIVAL 英語発表会を実施

TOPICS

- ・コーラス部がJWマリオット・ホテル奈良
クリスマス・チャリティ点灯式に出演
- ・外部講師講演会 「自衛隊のお仕事を学ぶ」
- ・一通の手紙はこうして届く
2年生、奈良西郵便局で仕事のひみつを学ぶ

幼稚園 P 09

園児たちの制作活動の成果を紹介する「制作展」を開催

TOPICS

- ・みんなで力を合わせて楽しい餅つき体験
- ・伝統芸能に親しむ「獅子舞の会」
- ・日本の伝統行事に親しんで
鬼は外! 福は内! 元氣いっぱい豆まき

教育連携 P 11

つながる ひろがる 教育連携

・同窓会だより P 12

・INFORMATION P 14



T-time

帝塚山学園広報誌

2026/Mar. Vol. 23
令和8年3月5日発行



〈表紙の写真〉

UR都市機構が主催する「コミュニティフェスタ2025」に参加した現代生活学部居住空間デザイン学科の学生たち。展示ブースのひとつ。表紙を飾る模型作品は、岩井沙倉さんが制作しました。詳細は3ページ。

巻頭言

これからも選ばれ続ける

帝塚山学園であるために

昨年同様に今回のテーマも「これからも選ばれ続ける帝塚山学園であるために」とします。

まず、これを考えるには学園の各学校の現状を少し振り返らなければと思います。令和7年度入学(園)者数は、大学では募集定員を大きく下回る68.7%の553人、中学校・高等学校は99.5%の637人、小学校103.1%の67人、幼稚園80.0%の32人と、特に大学では相当厳しい状況です。

一方、学園では現在、令和4年度から『経営安定化計画』の大学編、令和5年度から中高編、令和6年度から小幼編を、帝塚山学園第5次中期計画及

び各年度の事業計画に反映させながら個々の施策を鋭意実施および進行中ですが、これら各編の安定化計画は、各学年募集定員合計の「収容定員」の確保が前提として策定されていることから、募集定員を3年間大きく下回っている大学では、経営安定は相当厳しい状況となつていきます。このことから今後しばらくは大学の入学者確保が学園最大のテーマと考えているところです。

勿論、この状況に対し、既に大学と法人で構成する「学部学科のあり方委員会」では会議を重ねており、検討会で確認した入学者確保の具体的方策を逐

次スピード感をもって、実施していくこととしています。ただ、大学には国の大学修学支援制度対象機関としての制約条件をクリアする必要もあり、また文部科学省等への手続きには一定の時間を要することから、実施には難しい対応と一定の日時を要することを覚悟しなければなりません。と考えています。

「Never give up」の精神で必ずや乗り越えてやると心に決めております。どうか皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

学校法人 帝塚山学園
理事長・学園長 富岡 将人



学校法人 帝塚山学園

理事長・学園長 富岡 将人

UNIVERSITY
大学
12/17

大学女子バレーボール部が 富岡将人理事長・学園長を表敬訪問

大学女子バレーボール部の選手たちが、富岡将人理事長・学園長を訪問し、今シーズンの成果を報告しました。女子バレーボール部は、関西大学バレーボール連盟女子1部リーグにおいて春季・秋季リーグを連覇。さらに、「Phiten CUP 関西バレーボール大学男女選手権大会(関西インカレ)」でも優勝を果たし、充実した1年を締めくくりました。全国大会となる全日本大学女子選手権大会でもベスト16に進出し、着実な成長を示しました。

当日は、奥村由美子学長の挨拶に続き、藤田幸光監督から今シーズンの戦いぶりやチーム



の成長について説明がありました。また、主将の三反畑奈々星さん(経済経営学部4年)をはじめ、来訪した4年生の代表選手5名がそれぞれ自己紹介を行い、これまでの活動や支えてくれた方々への感謝の思いを述べました。

富岡理事長・学園長からは、日々の努力と成果を称えるとともに、「何事も身体が資本。悔いのないよう、それぞれの道で挑戦を続けてほしい」と温かい激励の言葉が贈られました。最後には、トロフィーや賞状を手記念撮影。晴れやかな表情と笑顔からは、今シーズンの充実ぶりと、次への意欲が感じられるひとときとなりました。

UNIVERSITY
大学
12/20

経済経営学部 姜ゼミ「大学生による IRリサーチ・プレゼンテーション」で受賞



経済経営学部の姜聖淑教授のゼミに所属する学生が、12月20日に開催された「令和7年度 大学生によるIRに関するリサーチ・プレゼンテーション」(主催:大阪府・大阪市)に参加し、「分析力発揮賞」を受賞しました。

本発表会は、大阪・夢洲におけるIR(統合型リゾート)事業への理解促進を目的に、関西7大学の学生が約1年間にわたり研究した成果を発表するものです。複数大学が年間を通して大阪IRを継続的に研究する取組は今回が初めてで、学生ならではの視点から大阪IRの可能性や課題を探る貴重な機会となりました。

姜ゼミは、「ESG視点で考えるIR—なぜ教育投資が重要なのか—」をテーマに、IRが地域や社会にもたらす長期的価値について分析。特に、教育分野への投資が人材育成や地域の持続的発展につながる点に着目し、データと論理に基づいた提案を行いました。



当日は、各大学による発表と質疑応答が行われ、講師である大阪観光局理事長/大阪府・大阪市IR推進会議座長の溝畑宏氏からも評価を受けました。

UNIVERSITY
大学
1/30

経済経営学部 吉野ゼミ 日本銀行大阪支店を訪問し、金融の最前線を学ぶ



経済経営学部の吉野功一准教授とゼミ生が、ゼミ活動の一環として日本銀行大阪支店を訪問しました。吉野ゼミでは、日頃からニュースで取り上げられる金融政策や為替の動きを題材に学習しており、今回はその理解を深めるため、実際の現場を訪れるアクティブ・ラーニングを実施しました。

当日は、日本銀行が担う「通貨の発行」「物価の安定」「金融システムの安定」という三つの役割について、映像を交えた説明を受けました。鑑査や送金業務など、私たちの日常を支える多様な業務に触れ、中央銀行の存在を身近に感じる機会となりました。

続いて、辰野金吾氏設計の歴史的建造物である旧館を見学。明治から続く重厚な空間に、日本経済を支えてきた重みを実感しました。営業場では、OCRを用いた正確性の高い業務や、最新の偽造防止技術についても学びました。

さらに、阪神・淡路大震災当時の対応を通じて、災害時にも通貨供給を守るBCP(事業継続計画)の重要性を理解しました。学生からは「社会を支える使命を感じた」との声が聞かれ、学びの多い見学となりました。



本学・UR都市機構主催 「コミュニティフェスタ」に 現代生活学部と法学部の 学生が参加



本学とUR都市機構主催の「コミュニティフェスタ」がUR中登美第3団地集会所奈良市で開催され、昨年の第4回から引き続き、今回も現代生活学部と法学部の学生が参加しました。本学とUR都市機構は2019年に連携協定を締結し、UR賃貸住宅およびその周辺地域における「コミュニティ形成や活動の活性化を目的に、少子高齢化などの地域課題に対応する取り組みを協働で進めています。本イベントも、その連携の一環として実施されたものです。

法学部では、学生ボランティア団体「トラフィックセーフティ奈良」による「知って安心!交通安全の最新情報講習会」も安全・安心に暮らせるまちに「」を実施しました。団体と協働する奈良西警察署の協力の下、交通事故の現状についてクイズ形式で分かりやすく解説するとともに、暗い道での事故防止対策として反射材が役立つことを解説。参加者が身近な問題として交通安全を考える機会となりました。

現代生活学部居住空間デザ



イン学科は、「卒業研究展示」と「交流&知的体験カードゲーム」を実施しました。学園前キャンパスで開催した卒業研究展の内容を学外でも紹介し、建築模型や研究作品を展示。学生が来場者に作品の特徴やコンセプトを丁寧に説明し、地域の方々と交流を深めました。

また、現代生活学部食物栄養学科の学生は「豆つかみゲーム&減塩クイズ」を実施しました。箸のゲームを通して正しい使い方を楽しく学べる機会を提供するとともに、身近な食品に含まれる食塩量や、日常生活で無理なく取り組める減塩方法についてクイズ形式で紹介しました。子どもから高齢の方まで幅広い世代が参加し、健康づくりについて考える場となりました。

当日は、多世代が集う地域イベントの中で、学生たちが日頃の学びを生かして活動する姿が見られました。今後、連携の取り組みを通じて、地域との交流を重ねてまいります。

※現代生活学部居住空間デザイン学科の卒業研究展については14ページに掲載しています。



JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL
中学校・高等学校
11/2

弦楽部 全国大会で第2位を獲得

弦楽部が、福島県郡山市のけんしん郡山文化センターで行われた「第14回日本学校合奏コンクール2025全国大会 ソロ&アンサンブルコンテスト」のアンサンブル部門に出場し、「最優秀賞」ならびに、全国第2位の演奏に授与される「福島県教育委員会教育長賞」を獲得しました。

今回の演奏曲は、チャイコフスキー作曲「フィレンツェの思い出」第4楽章。弦楽部の高校2年生から中学3年生までの20名が挑みました。メンバーは以下の通りです。

- 〈高2〉井澤陽菜子さん 井本京香さん 井本伶奈さん 太田歩花さん 岡山実樹さん 加瀬瑞生さん 瓦井陽菜さん 久保葵さん 塩田あまねさん 新門由梨さん 高谷真央さん 内藤葵さん 中井美沙さん 中村咲希さん 成宮璃子さん 山崎莉奈さん
- 〈高1〉市森美希さん 岩本仁美さん
- 〈中3〉岩田莉音さん 西村美心さん



難曲として知られる楽曲への挑戦でしたが、練習を積み重ね、練り上げられた見事な演奏を披露しました。

JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL
中学校・高等学校
11/12

DXハイスクール記念講演を実施 —バイオベンチャーがひらく持続可能な社会と新しい仕事のかたち—



DXハイスクールの取り組みの一環として、高校1年生を対象に記念講演を実施しました。DXハイスクールとは、文部科学省が推進する「高等学校DX加速化推進事業」の通称で、高校段階からデジタルや理数分野の教育を強化し、デジタル社会に対応できる人材育成を目指す国の取り組みです。

今回の講演には、ちとせグループより柳町みゆきManagerをお招きし、「バイオベンチャーがひらく持続可能な社会と新しい仕事のかたち」というテーマでご講演をいただきました。柳町氏より、微生物、微細藻類などの小さな生き物の培養にAIを活用する技術開発や、バイオエコノミーを推進する産業共創プロジェクト、ご自

身のキャリアについても具体的にお話いただきました。講演では、現在進行中のプロジェクトや未来社会での仕事のあり方について、最新の事例を交えながら紹介され、文理選択を考える生徒たちにとって大きな刺激となりました。また、「好きなことを追求すること」や、「これからの社会で求められる能力」についても言及いただき、生徒たちが自らの進路を考える貴重な機会となりました。講演後には、岩手県の動物園とのコラボレーションで作られた微細藻類スピルリナを用いた米菓子「おさるのきもち」を試食し、藻類という素材を身近に感じる体験も行いました。

身のキャリアについても具体的にお話いただきました。講演では、現在進行中のプロジェクトや未来社会での仕事のあり方について、最新の事例を交えながら紹介され、文理選択を考える生徒たちにとって大きな刺激となりました。また、「好きなことを追求すること」や、「これからの社会で求められる能力」についても言及いただき、生徒たちが自らの進路を考える貴重な機会となりました。講演後には、岩手県の動物園とのコラボレーションで作られた微細藻類スピルリナを用いた米菓子「おさるのきもち」を試食し、藻類という素材を身近に感じる体験も行いました。



JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL
中学校・高等学校
2/15

マイナビキャリア甲子園で挑戦 —決勝進出へ

全国の高校生が企業課題に挑む国内最大級のビジネスコンテスト「第12回マイナビキャリア甲子園」に、本校生徒が昨年に引き続き挑戦しました。本大会は、企業が提示するテーマに対し、高校生がチームでビジネスアイデアを考案し、書類審査やプレゼン審査を通じて競い合う実践型の探究活動です。第12回大会には全国から11,668名、3,151チームが参加しました。

厳正な書類審査を経て、各企業ごとに選出された20チームがプレゼン動画審査に進出。本校からは「糖質上糖」チームが食品メーカー・株式会社ロッテのテーマに挑戦し、動画審査を通過しました。「糖質上糖」チームは、加古一貴さん(高2)、小林篤志さん(高2)、松岡律さん(高2)、吉田隆聖さん(高2)の4名からなります。

2月15日に東京都内で開催された準決勝大会では、企業担当者を前に10分間のプレゼンテーションを実施。その結果、同チー

ムはInnovation部門の株式会社ロッテの企業代表に選出されました。これにより、3月14日・15日に開催予定の決勝大会への進出が決定しました。全国の企業代表チームが一堂に会する舞台上、さらなる挑戦に臨みます。

本大会への挑戦を通じ、生徒たちは企業課題と真剣に向き合いながら、仲間と議論を重ねてきました。試行錯誤を繰り返した経験は、大きな自信となっています。決勝大会でも、これまでの学びを胸に、自分たちらしいプレゼンテーションを届けてくれることを期待しています。



左より加古さん、小林さん、松岡さん、吉田さん



中学校・高等学校 JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

古都奈良の冬を赤く染める伝統行事 若草山焼きに生徒・教員が 法螺貝衆として参加

JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL
中学校・高等学校
1/24



1月の第4土曜日に行われる奈良の伝統行事「若草山焼き」。若草山の山肌(やまのかわ)に火を放ち、無病息災や五穀豊穡、先人の鎮魂と慰霊を祈願するこの行事は、奈良の冬の風物詩として広く知られています。山全体が真っ赤な炎に包まれる幻想的な光景は、奈良市内の夜空を染め、市民や多くの観光客に早春の訪れを感じさせます。この行事は、春日大社・興福寺・東大寺に加え、修験道の総本山である金峯山寺の山伏も参加するなど、神仏習合の色濃い祭礼として、古くから受け継がれてきました。

この若草山焼きに、本校吹奏楽部の猪岡憲太郎さん(高1)、森康二朗さん(中3)、そして福原瑞木教諭が、法螺貝衆として参加しました。法螺貝衆は、法螺貝の音によって行事の始まりや進行を告げ、厳かな雰囲気を出す重要な役割を担っています。

法螺貝は、息のスピードや強さのみで音程を変える非常に奥深く難しい楽器です。発音の仕組みが金管楽器に似ていることから、吹奏楽部員の中から希望者を募り、2名の生徒が法



金峯山寺のご住職より法螺貝の吹き方を直接ご指導いただきました



左より猪岡さん、森さん、福原教諭

螺貝衆として選出されました。当日は、春日大社境内で御神火奉戴祭(ごみくろ)が執り行われ、神火は聖火行列として若草山麓へと運ばれました。興福寺・東大寺の僧侶による読経に加え、金峯山寺の山伏も参列する中、山麓中央のかがり火に神火が点火され、続いて約600発の大火火が夜空を彩りました。その後、法螺貝と奈良市消防団ラッパ隊の合図をきっかけに、松明の火が若草山全山へと一斉に移され、山は瞬く間に赤く染まりました。

法螺貝衆として伝統行事の一翼を担った経験は、生徒たちにとつて、奈良の歴史と文化を肌で感じるかけがえのない学びとなりました。日頃は音楽室で楽器に向き合っている生徒たちが、古都奈良の厳かな行事の中で音を響かせたことは、技術の向上だけでなく、音楽が持つ役割や意味を改めて考える貴重な機会となりました。



ELEMENTARY SCHOOL
小学校
11/14

コーラス部がJWマリオット・ホテル奈良 クリスマス・チャリティ点灯式に出演



JWマリオット・ホテル奈良で開催された「クリスマス・チャリティ点灯式2025」に、小学校コーラス部が出演しました。会場となったホテルロビーには、シルバーとホワイトを基調とした高さ約4メートルのクリスマスツリーが設置され、華やかな雰囲気の中で点灯式が行われました。点灯式のクライマックスで登場したコーラス部は、顧問の田中葉子教諭の伴奏に合わせて、「赤鼻のトナカイ」などのクリスマスソングを披露しました。児童たちはトナカイやサンタクロースの帽子の被り物を身につけ、元気いっぱいの歌声で会場に一足早いクリスマスの訪れを感じさせました。



ロビーいっぱいに歌声が響き渡ると、来場者からは自然と手拍子が起こり、演奏後には温かな拍手が送られました。緊張した表情を見せながらも、こ

れまでの練習の成果を発揮し、最後まで笑顔で歌う姿が印象的でした。

本イベントは児童養護施設への支援を目的としたチャリティも兼ねており、コーラス部の出演は、地域とともにクリスマスを祝う催しに彩りを添えました。児童たちにとっても、多くの人の前で音楽を届ける貴重な経験となりました。



ELEMENTARY SCHOOL
小学校
12/17

外部講師講演会 —自衛隊のお仕事を学ぶ—



生活科「身近ではたらく人びと」の学習の一環として、2年生を対象に、自衛隊奈良地方協力本部より講師の方をお招きし、外部講師講演会を実施しました。本学習の目標は、「私たちのため、そして社会のために働く人々が、身近な場所だけでなく、見えないところでも活躍していることを知り、人の役に立とうとする生き方へのあこがれや感謝の気持ちをもつこと」です。

講演では、自衛隊には95種類もの仕事があることや、自衛隊の役割、日々の活動について分かりやすく教えていただきました。「どうしてポケットがたくさんあるの?」「なぜ迷彩



服を着ているの?」といった児童たちの素朴な疑問にも、一つひとつ丁寧に答えていただき、児童は目を輝かせながら話を聞いていました。

後半の体験学習では、敬礼の仕方を教わったほか、毛布を使った人の運び方や、災害派遣時に使用される簡易担架の作り方と使い方を実際に体験しました。

今回の学習を通して、自衛隊が人々の命と安全を守る大切な仕事であることを実感するとともに、社会を支える仕事への理解と感謝の気持ちを深める貴重な機会となりました。



ELEMENTARY SCHOOL
小学校
1/22

一通の手紙はこうして届く 2年生、奈良西郵便局で仕事のひみつを学ぶ



社会見学の一環として、2年生が奈良西郵便局を訪問しました。今回の見学では、郵便局の仕事や、郵便物が私たちの手元に届くまでの流れについて、職員の方から具体的に教えていただきました。

はじめに、郵便局の数や役割について説明を受けました。郵便局は日本全国に

約24,000局あり、そのうち郵便物の配達を行う郵便局は約3,300局あります。奈良県内には305局あり、配達を行っているのは50局です。また、郵便ポストは明治4年に始まったという歴史についても知ることができました。

次に、普段は入ることのできないバックヤードを見学しました。郵便物には、ブラックライトを当てると見えるバーコードが印字されており、それを機械が読み取って区分機で宛先別に仕分けしている様子を見ることができました。たくさんの郵便物を正確に届けるための工夫を、間近で学ぶことができました。



さらに、配達前には安全のためにバイクの走行練習を行っていることや、実際に使われている電動の配達バイクも見学しました。

一通の手紙を届けるまでに、多くの人の手と工夫が関わっていることを知り、郵便局の仕事の大切さを実感する貴重な社会見学となりました。



1年生にとっては、英語での舞台発表が初めての経験です。英語が初めての児童も得意な児童も互いに協力し、英語の歌



豪州イートン小学校からのビデオメッセージ

発表を終えた児童たちの表情には、やり遂げた達成感と、英語で伝えることへの自信があふれていました。鑑賞していた保護者の方々からも、「学年ごとの成長がよく分かった」「英語を楽しみながら学んでいる様子が伝わってきた」といった温かい声が寄せられました。



に合わせて体を動かしながら、元気いっぱいに表現しました。2年生は動物になりきった発表に挑戦し、衣装や動きを工夫して、表現力豊かなステージを見せてくれました。3年生は一人ずつのスピーチに挑戦し、自分の好きなことや関心を英語で発表しました。4年生は得意なことや夢中になっていることをテーマに、実演を交えながら英語で説明し、観客を引き込みました。5年生はグループに分かれて物語を英語で朗読し、長いセリフも練習を重ね、聞き手に伝わる発表となりました。6年生は「将来の夢」をテーマに、自分の思いを英語で堂々と語りました。その姿は下級生にとつて大きな刺激となり、会場からは温かい拍手が送られました。

小学校全学年が参加するWINTER FESTIVAL 英語発表会を開催しました。全校児童が一堂に会し、学年ごとの発表を互いに見合いながら、英語で「伝える」楽しさを共有する場となりました。



ELEMENTARY SCHOOL
小学校
12/16

小学校 ELEMENTARY SCHOOL

英語で思いを届ける一日 WINTER FESTIVAL 英語発表会を実施

KINDERGARTEN
幼稚園
12/17

みんなで力を合わせて 楽しい餅つき体験



年末恒例の餅つきが、リズム室で行われました。今年度も園児たちは元気いっぱい、蒸したてのもち米の香りが広がる中、期待に胸を膨らませて準備を進めました。「早くつきたい!」と目を輝かせる園児たちの姿が印象的です。

餅つきが始まると、「よいしょ! よいしょ!」と元気の掛け声が響き渡りました。園児たちはお餅がつき上がる様子に興味深く見守りながら、順番に杵を取り挑戦しました。力いっぱい杵を振り下ろすと、「重いけど楽しい!」と声があがり、つきたてのお餅の柔らかい感触を楽しんでいました。

つき上がったお餅は、きな粉や醤油



で味わい、みんなで一緒にいただきました。「おいしい!」「たくさん食べた!」と笑顔があふれ、和やかな雰囲気になりました。また、育友会の皆さんにも、餅を小さく丸めたり、ゆでて食べやすくしてくださったりとお手伝いいただき、園児たちが安心して楽しめる環境が整いました。

最後に、日頃お世話になっている給食を作ってくださいの食堂の方や、学園の守衛さん、学園前駅の駅員さん、交番のおまわりさんにも感謝の気持ちを込めてお餅を届けました。園児たちにとって、楽しみながらも協力や感謝の心を学ぶ貴重な体験となりました。



KINDERGARTEN
幼稚園
1/29

伝統芸能に親しむ「獅子舞の会」



天川村郷土芸能保存会・洞川民芸会の皆さんをお招きし、「獅子舞の会」を開催しました。当日は、獅子舞をはじめ、法螺貝、太鼓、篠笛、南京玉すだれなどの伝統芸能を披露していただきました。

洞川は約1300年前に開かれた山の里で、信仰とともに芸能が受け継がれてきた地域です。法螺貝は病気

平癒や願いごとを祈る際に吹かれるもので、低く響く音に園児たちは静かに耳を傾けていました。獅子舞では、頭を噛んでもらうと無病息災になると教えていただき、少し緊張しながらも順番に頭を噛んでもらっていました。



竹で作られた篠笛では、「きらきら星」や「雪」が演奏され、園児たちも歌う様子が見受けられました。太鼓演奏では「やっさい」という曲に合わせて掛け声を出し、南京玉すだれでは、「かぐや姫」や「桃太郎」の物語

が表現され、園児たちは興味深く見ていました。

最後には、園の安全と園児たちの健やかな成長を願ってお札を授与していただきました。いただいたお札は園の入口に飾り、家内安全・無病息災を祈念しています。日本の伝統芸能に触れる、貴重な時間となりました。



KINDERGARTEN
幼稚園
2/3

日本の伝統行事に親しんで 鬼は外! 福は内! 元気いっぱいの豆まき



2月3日、節分行事として豆まきを実施しました。各教室から聞こえてくるのは、少し緊張しながらも力強い「鬼は外、福は内!」の声。行事を心待ちにしていた園児たちの気持ちが、園内いっぱいに広がっていました。

するとそこに現れた赤鬼と青鬼に、教室の空気は一変。突然の登場に驚きながらも、園児たちは自分の手に握った豆をしっかりと構え、勇気を出して鬼に向かいました。怖さから涙がこぼれる園児、友達と声を



掛け合いながら挑戦する園児と同じ場面の中でも、一人ひとりの個性が感じられるシーンでした。

先生たちの見守りの下、最後にはみんなで鬼を追い払い、教室には安堵と達成感が広がりました。行事後には、「もう平気」「鬼に勝てたよ」と、自信に満ちた言葉も聞かれ、心の中に小さな勇気が芽生えたようでした。

また、節分に向けて各クラスでは、鬼の被り物や豆入れづくりにも取り組みました。作る楽しさと行事への理解を深めながら、日本の伝統文化に親しむ大切な時間となりました。



幼稚園 KINDERGARTEN

園児たちの制作活動の 成果を紹介する 「制作展」を開催

KINDERGARTEN
幼稚園
12/16



リズム室や各教室を会場に、園児たちが日々の保育の中で取り組んできた制作活動の成果を紹介する「制作展」を開催しました。2歳児から年長組まで、年齢や発達段階に応じたさまざまな作品が展示され、園内は美術館のような雰囲気になりました。訪れた保護者の皆さんは足を止め、わが子や友だちの作品を一つひとつ丁寧に見て回る様子が見られました。

幼稚園の入口では、大学教育学部の服部正志准教授と学生とともに制作した「みんなのだいぶつさま」が展示され、来場者を迎えました。

年長組は、共同木工制作として取り組んだ「大阪・関西万博2025」をテーマにした作品を展示しました。2クラス合同で制作した「大屋根リング」は、制作前に園児たち自身が話し合い、考えた設計図を基に作られたものです。木材を組み合わせて形にした大屋根リングの周りには、新聞紙や不織布を使って作った「ミヤクミヤク」や、大屋根リングの上を歩く紙



粘土の自分たちの姿も並び、制作の過程で考えた工夫が作品として表現されていました。

このほか、年長組では、お泊り保育で制作した赤膚焼の湯呑みも展示され、それぞれ異なる形や模様の作品が並びました。(詳細は「T-time」vol.22)

年中組は、園外活動で訪れた海遊館での経験をもとに制作した「サンゴ」の木工作品を展示しました。のこぎりで木を切り、土台に打ち付けて立体的に仕上げた作品が並び、木工制作に取り組んだ成果が紹介されました。

年少組は、初めての木工制作として取り組んだ「きのこ」を展示しました。かなづちを使って、くぎを打ち込み、一人一つずつ完成させた作品が並び、木工制作への初めての取り組みの様子が伝わる展示となりました。

会場では、自分の作品を保護者に指さしながら説明する園児の姿も多く見られ、これまでの制作活動を振り返るよい機会となりました。



2歳児は親子制作の紙織り作品を展示





2026.1.12 はたちを祝う会を開催しました

1月12日、学園講堂において「帝塚山中学校・高等学校 78期生 はたちを祝う会」を開催しました。当日は、スーツ姿や華やかな振袖に身を包んだ78期生の卒業生245名が集い、卒業から年月を経て再び母校に集まった友人や恩師との再会を喜び合う、和やかな雰囲気に包まれました。

式典では、主催者を代表して玉井政弘同窓会長より式辞が述べられ、続いて富岡将人理事長・学園長、小林健校長より卒業生へ祝福と激励の言葉が贈られました。

その後、78期生代表による「誓いの言葉」が述べられ、これまで支えてくれた家族や恩師への感謝とともに、これからの人生へ向けた決意が語られました。

式典の締めくくりには、全員で「帝塚山学園の歌」と祝歌「茜雲」を斉唱し、学園で過ごした日々を胸に刻みながら、節目の一日を締めくくりました。

式典後は、恩師を囲んで記念撮影が行われるなど、旧交を温めるひとときとなりました。



誓いの言葉を述べる78期生代表



玉井政弘 同窓会長



富岡将人 理事長・学園長



小林健 校長

2026.1.12 78期生同期会

1月12日、「はたちを祝う会」終了後、ホテルモントレ グラスミア大阪にて78期生同期会を開催しました。

会場には色とりどりの料理が並び、久しぶりに再会した仲間たちと食事を楽しみました。会の途中には、先生方からのメッセージ動画が披露され、人生の先輩としての温かい激励の言葉をいただきました。また、ビンゴ

大会では番号が読み上げられるたびに歓声が上がリ、会場は大いに盛り上がりました。

その後も懐かしい友人たちと近況を語り合い、笑顔あふれるひとときを過ごしました。閉会後も名残を惜しみながら語り合い、それぞれ新たな一歩へととなりました。



子育て講演会を開催 — 子どもの育ちに必要なチカラを学ぶ —



講師には、作業療法士の資格を持つ津奈 良泉障害者総合支援センターの蔭山静加氏をお招きし、作業療法や感覚統合の視点から子どもの成長・発達を支える関わり方についてご講演いただきました。

講演には、作業療法士の資格を持つ津奈 良泉障害者総合支援センターの蔭山静加氏をお招きし、作業療法や感覚統合の視点から子どもの成長・発達を支える関わり方についてご講演いただきました。



講演には、作業療法士の資格を持つ津奈 良泉障害者総合支援センターの蔭山静加氏をお招きし、作業療法や感覚統合の視点から子どもの成長・発達を支える関わり方についてご講演いただきました。

子どもの行動の背景にある感覚の特性や発達段階に応じた支援の大切さなど、日常の子育てや教育現場で生かせる具体的なヒントが紹介されました。

また、講演では実践的なワークショップも行われました。参加者は、片足立ちをしながら物を投げたり受け取ったりする体験や、5人組で2個のボールを使い、合図に合わせて互いにパスを回す活動、音を立てずに拍手をする取り組みなどに挑戦。身体を動かしながら、感覚の統合や身体性の発達に果たす役割を体感しました。

また、講演では実践的なワークショップも行われました。参加者は、片足立ちをしながら物を投げたり受け取ったりする体験や、5人組で2個のボールを使い、合図に合わせて互いにパスを回す活動、音を立てずに拍手をする取り組みなどに挑戦。身体を動かしながら、感覚の統合や身体性の発達に果たす役割を体感しました。



また、講演では実践的なワークショップも行われました。参加者は、片足立ちをしながら物を投げたり受け取ったりする体験や、5人組で2個のボールを使い、合図に合わせて互いにパスを回す活動、音を立てずに拍手をする取り組みなどに挑戦。身体を動かしながら、感覚の統合や身体性の発達に果たす役割を体感しました。



大学と中学校が連携し、平和を考える学びを深化 「平和の日めくりカレンダー」制作ワークショップ(第3回)

これまでの2回のワークショップでは、掲載候補日の選定や文献・資料調査を行い、日めくりカレンダー全体の構成や方向性について理解を深めてきました。そして今回は、これまでの検討内容を踏まえ、各日付に添えるデザインや解説文の具体化を進めるとともに、「奈良県に平和の日を制定する」としたというテーマで意見交換を行いました。

これまでの2回のワークショップでは、掲載候補日の選定や文献・資料調査を行い、日めくりカレンダー全体の構成や方向性について理解を深めてきました。そして今回は、これまでの検討内容を踏まえ、各日付に添えるデザインや解説文の具体化を進めるとともに、「奈良県に平和の日を制定する」としたというテーマで意見交換を行いました。



本ワークショップは、「Society 5.0時代における人権・平和教育を通じた中大連携プロジェクト」の一環として実施され、戦争や平和に関する国内外の歴史的出来事を365日分整理し、日常生活の中で平和について考えるきっかけを生み出すことを目的としています。

本プロジェクトは、帝塚山学園の教育連携提案事業として、大学法学部末吉洋文教授の指導の下、大学と中学校が連携して実施している取り組みです。大学法学部のゼミ生と中学生が協働で取り組む「平和の日めくりカレンダー」の制作は、今回で3回目



母校の誇り—美容師として卓越した技能を磨き続けた岩見吉記さん、黄綬褒章を受章



令和7年秋の叙勲において、本校の卒業生である岩見吉記さんが、長年にわたり美容師として職務に精励された功績により黄綬褒章を受章されました。岩見さんは帝塚山中学・高校(45期生)、帝塚山大学(28期生)を卒業後、美容師の道へ進み、国内外で経験を重ねながら技術を磨かれてきました。

大学卒業後は東京でキャリアをスタートされ、その後フランス・パリでも勤務。世界の第一線で美容技術を学び、感性を磨かれました。現在は奈良市でサロンを開業し、地域に根差した活動を続けられています。また、国内のヘアショーに加えて、台湾やシンガポールなど海外でもショーを開催し、その創造性と技術力は国境を越えて高く評価されています。



今回の褒章だけでなく、厚生労働省医薬・生活衛生局長表彰、奈良県知事表彰など多くの賞を受賞され、優れた技能を持つ美容師として広く認められています。母校から羽ばたき、常に挑戦を続けてこられた岩見さんのご活躍は、在校生・卒業生にとって大きな励みとなることでしょう。今回のご受章、心よりお祝い申し上げます。

特別展示「奈良と帝塚山学園の『戦後80年』」 学園前キャンパスにて一部展示を継続

東生駒キャンパス図書館で開催していた特別展示「奈良と帝塚山学園の『戦後80年』」は、2025年12月1日をもって終了しました。戦後80年という節目にあたり、戦争を通じた奈良の地域史と帝塚山学園の歩みを資料やパネルを通して紹介する展示として実施されたものです。



展示終了後もその内容を広く共有するため、使用したパネルの一部を、学園前キャンパス16号館の「帝塚山学園史展示コーナー」に移設し、引き続き公開することとなりました。学生や学園前キャンパスの生徒、教職員が平和について改めて考えるきっかけとなることを目的としています。

12月3日に、美術史を専門とする関根俊一客員教授の指導の下、人文科学研究科の大学院生有志が展示作業を行いました。資料の内容を確認しながら、配置や見せ方を検討し、落ち着いた展示空間となるよう設営を進めました。

大学 現代生活学部 居住空間デザイン学科 卒業研究展を開催

大学現代生活学部居住空間デザイン学科による、第19回卒業研究展を学園前キャンパスで開催しました。会場には、2026年3月卒業予定の学生による建築・インテリア・造形デザインなど計67点の作品が並び、日頃の学修成果を披露しました。



本展は一般公開もされ、多くの来場者でにぎわいました。会期中には富岡将人理事長・学園長も来場し、学生が自ら作品のコンセプトや工夫点を説明しました。



クラブ表彰を実施

2月12日、全国大会に出場したクラブに対して表彰式を行いました。対象となった8クラブの生徒・団体それぞれに帝塚山学園同窓会から賞状を贈呈しました。表彰されたクラブは以下の通りです。

 WRO 決勝大会 理科部ロボット班	 第77回 高円宮杯 全日本中学校 英語弁論大会 <small>奥村 茉田さん(中3)</small> 中学英語部	 第14回日本学校 合奏コンクール アンサンブルコンテスト グランドコンテスト 弦楽部
 JOCジュニア オリンピックカップ 2025年全国卓球 選手権大会 (カデットの部) <small>米田 貴昭さん(中2) 中川 智愛さん(中1)</small> 中学卓球部	 第27回 全国中学選抜 卓球大会 中学卓球部	 第72回NHK杯 全国高校放送 コンテスト 高校放送部
 第42回NHK杯 全国中学校放送 コンテスト 中学放送部	 第42回 中学校高等学校 ギター・マンドリン 音楽祭 ギターマンドリン部	 第25回 日本情報 オリンピック <small>濱口 琉良さん(高1)</small> 数学研究部

各期同期会／クラブOB・OG会

令和7年5月以降、次の同期会、クラブOB・OG会が開催されました。

- 5月24日 47期半世紀同窓会
- 6月21日 「半田先生を偲ぶ会」兼同窓会(43期生)
- 9月23日 ソフトボール部OG会
- 11月8日 高校バレー部同窓会
- 12月5日 13期生同窓会
- 12月7日 27期生同期会
- 令和8年
- 1月12日 78期生同期会



ソフトボール部OG会での記念撮影



「T-time」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
本誌をお楽しみください。



学校法人帝塚山学園
Tezukayama Gakuen

学園の「今」をもっと身近に 各学校園のInstagramをチェック！

帝塚山学園では、幼稚園から大学まで、それぞれの学校園がInstagramで日々の様子やイベント情報を発信しています。子どもたち・学生たちのいきいきとした表情や、学校生活の一コマをぜひご覧ください。

下の二次元コードから、アカウントをのぞいてみてください。
「フォロー」と「いいね!」で、応援をよろしくお願いします！



帝塚山大学



帝塚山中学校・
高等学校



帝塚山小学校



帝塚山幼稚園